

## 巻末資料

### 大学入学共通テスト問題評価・分析委員会 外部評価分科会の外部評価（高等学校教科担当教員の評価）

大学入学共通テストは、「大学への入学志願者を対象に、高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的」とした試験として実施されている。このことに照らし、令和6年度大学入学共通テスト（本試験）の試験問題について、以下の項目別（8項目）及び総合的観点から適切であったかを、枠内の評定値により4段階で評価した。

#### 1 項目別評価

- (1) 問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題の出題も含め、バランスのとれた出題となっている（出題のねらい）
- (2) 高等学校学習指導要領の範囲内から出題されており、特定の分野・領域に極端に偏っていない（出題範囲）
- (3) 問題で使用される資料等<sup>\*1</sup>が、特定の教科書に偏っていない（題材）
- (4) 高等学校における学習の過程を意識した問題の場面設定<sup>\*2</sup>がなされた問題が含まれており、その場面設定が、教科・科目の本質に照らし必然性のある形で出題されている（問題の場面設定）
- (5) 試験問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は適切である（問題構成）
- (6) 文章表現・用語は適切である（表現・用語）
- (7) 問題の難易度は適正である（難易度）
- (8) 得点のちらばりは適正である（得点のちらばり）

※1 教科書で扱われていない初見の資料等を扱う場合、資料そのものに対する知識を問うのではなく、資料を活用して高等学校で身に付けた知識や思考力等を問うための題材として扱うことを前提としている

※2 授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面など

#### 2 総合評価

1の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、大学入学共通テストの試験問題として適切である

(評定値)

- 4 あてはまる
- 3 ある程度あてはまる
- 2 あまりあてはまらない
- 1 あてはまらない

科目名	国語
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえ、高等学校国語科における基礎的な学習内容の理解や思考力等を問う出題となっている。
(2)出題範囲	4	学習指導要領の範囲内から出題されており、出題範囲は適切である。
(3)題材	4	出題される資料等が特定の教科書に偏っておらず、高等学校で身に付けた知識や思考力等を問うための適切な題材である。
(4)問題の場面設定	4	受験者の学習過程や高等学校における国語科の授業を想定した出題となっており、受験者の日々の学習や学校における授業改善に向けたメッセージ性のあるものとなっている。
(5)問題構成	4	本文や資料等の内容に応じた設問数や選択肢数が設定され、配点や設問形式は適切である。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は素材文、選択肢群ともに適切である。
(7)難易度	4	様々な設問が組み合わされており、全体として難易度は適切である。
(8)得点のちらばり	4	全体として得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として、学習指導要領において目指す資質・能力について、その達成の程度を判定する試験問題として適切である。

科目名	世界史A
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察し、概念的に理解しているかを問う、知識の理解の質を問う問題がバランス良く出題されている。
(2)出題範囲	3	科目の特性として、近現代史、欧米、東アジアが多い。前近代からの出題が前近代の知識を問うだけになっており、近現代史との関連を問う出題にするなど、一層の検討をお願いしたい。
(3)題材	4	初見資料も含めた図像資料（風刺画、絵画）、地図、グラフ、文字資料など、様々な資料の提示があり、題材の読み取りから発問が展開するなど工夫が見られた。
(4)問題の場面設定	4	大問すべてに会話文が登場し、生徒同士が発表準備をする場面や、美術館での鑑賞場面など、工夫が見られた。
(5)問題構成	3	設問数、配点、設問形式等は適切であった。思考・判断を問う問題をもう少し増やしていいと思われる。また、政治史がやや多すぎた。文化史などを増やす工夫がほしい。
(6)表現・用語	4	資料や問題文、選択肢を含め、文章の表現や用語の使い方は適切であった。
(7)難易度	4	大学入学希望者の学力を測る問題として、適切な難易度であった。
(8)得点のちらばり	4	適切な分布であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	学習指導要領の趣旨を踏まえた内容であり、世界史Aとして、地域、時代、出題形式などのバランスがとれており、概ね適切な出題であった。「歴史総合」「世界史探究」につながる良問も見られた。

科目名	世界史B
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	読み取った情報や知識を基に考察する問題や、包括的な理解および概念的な理解を問う問題が多く出題されており、共通テストの目的に沿った問題となっていた。
(2)出題範囲	3	学習指導要領に照らし合わせて、出題範囲はおおむね適切であった。出題されている地域間にはまだバラつきがあるため、周辺地域の出題など、一層の検討をお願いしたい。
(3)題材	4	多くの受験者にとって、初見と思われる資料が多く、中間単位で複数の資料を扱うなどの工夫が見られた。
(4)問題の場面設定	3	高校の授業や大学のゼミなど、実際の学びの場面が想定されていた。授業内における探究的な学びなどにも視点をおいて出題すると、よりよいものになるだろう。
(5)問題構成	4	設問数や配点、設問形式等は適切であった。読み解きや思考を伴う問題が増加している分、受験者の負担が過多になりすぎない配慮は引き続きお願いしたい。
(6)表現・用語	4	資料や問題文、選択肢を含め、文章の表現や用語の使い方は適切であった。
(7)難易度	4	大学入学希望者の学力を測る問題として適切な難易度であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	学習指導要領の趣旨を反映した内容であり、入学者選抜の問題として適切であった。資料や問題文を丁寧に読み解くことを前提に論理整合性を問う問題や、概念的な理解を問う問題も見られた。新指導要領における新科目を見据えた問題も見られた。

科目名	日本史A
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識・理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランス良く出題されていた。
(2)出題範囲	4	特定の分野・領域への偏りがなく、高等学校学習指導要領に示された範囲から出題されていた。
(3)題材	3	出題された史資料が特定の教科書に偏っておらず、題材に工夫がなされていたが、史資料の多様性、バランスに検討の余地がある。
(4)問題の場面設定	4	高校生の具体的な学習活動に沿った形式は、受験者にとって必然性のある場面設定であり、適切である。
(5)問題構成	4	設問数や配点、小問の出題形式のバランス等、問題構成は適切であった。
(6)表現・用語	4	史資料の提示を含めて明確な文章表現であり、必要な箇所には脚注が付され、正確な判断ができるよう配慮されていた。
(7)難易度	4	基本的事項の正確な理解や基礎的な力を問う問題が主体であり、適正であった。
(8)得点のちらばり	4	極端な奇問・難問はなく、全体的な得点のちらばりは適正であったと考えられる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	思考力・判断力・表現力等を重視する学習指導要領の指針に合致するもので、高等学校段階における基礎的な学習の達成度を判定するための試験として適切であった。

科目名	日本史B
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	各時代の特色とその変遷、外国との関係について、諸資料に基づいて総合的に問う視点が総じて明確であった。各設問からは、知識・理解に偏ることなく、諸資料を活用しながら思考力・判断力・表現力等をバランス良く問うための工夫が感じられた。
(2)出題範囲	4	時代・分野・領域のいずれにおいても極端に大きな偏りは感じられず、おおむね適切であった。
(3)題材	3	歴史的事象についての考察を深める資料として、写真や文字史料、統計資料などが工夫されて用いられていた。次年度以降も、さらに多様な資料が用いられ、思考力・判断力・表現力等を効果的に問う設問が出題されることに期待する。
(4)問題の場面設定	4	大半の大問で学習指導要領が求める高校生の主体的な学習活動に沿った場面が設定されていた。食物を題材とした出題もあり、身近な生活に基づく出題の工夫は評価したい。
(5)問題構成	4	設問数・配点・設問形式のいずれにおいても適切であった。
(6)表現・用語	4	解答に際して特に難解と感じる表現・用語は見られなかった。史料から情報を読み取るだけでなく、各時代の特色を考察させる設問については、今後も継続して出題されることを期待する。
(7)難易度	4	総じて適正であったと言える。昨年度に引き続いて初見の資料が多数引用されたが、歴史的事象の意味や意義に関する深い理解があれば、難易度の高いものではなく、解答は十分に可能であったと考えられる。
(8)得点のちらばり	4	著しい偏りは感じられず、おおむね適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	別記のとおり出題のねらいが明確であり、高等学校の歴史の授業への改善点を示唆する内容であった。次年度以降も、歴史的事象の知識のみならず、歴史的思考力を多面的・多角的に問う良質な問題を期待したい。

科目名	地理A
-----	-----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針に則り、資料から読み取って得た情報を基に考察する力、知識・技能、探究を深めたり課題を解決したりしようとする力がバランスよく問われている。
(2)出題範囲	3	地理的技能、自然災害と防災、生活文化、アフリカを対象とした考察、地域調査など、偏りなくバランスよく問われているものの、生活文化を問う考察では、他の範囲の知識が求められる問題も見られた。
(3)題材	4	地理の授業で扱われる内容だけでなく、初見の内容も多く、工夫された出題となっている。実際の地理的事象を具体的にシミュレーションする問題も見られる。
(4)問題の場面設定	4	特に第2問では生徒が仮説を立て探究する過程、第5問では生徒が自ら地域調査を進める過程がとられ、第1問、第3問、第4問と合わせて多様でバランスよく設定されている。
(5)問題構成	4	出題のねらい、範囲、題材、場面設定ともに、バランスよく多様な観点から出題されている。各大問の設問数及び総問題数も適切である。
(6)表現・用語	4	昨年度と比べて、受験者に配慮した適切な表現や用語が多用されており、判読のしやすい明瞭な資料や図版が多く見られる。
(7)難易度	4	資料から読み取った情報を基に、地理的知識や技能、地理的な見方や考え方を働かせて考察、分析できる問題が多く、易問・難問のバランスも適切である。
(8)得点のちらばり	4	平均点付近を中心に、正規分布に近い広がりが見られ、判別性が適切に機能していたと考えられる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	問題全般にわたって、ねらい、出題範囲や題材、場面設定などの問い方、難易度等、各観点ともに工夫され、バランスのよい出題となっている。

科目名	地理B
-----	-----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針に則り、資料から読み取って得た情報を基に考察する力、知識・技能、探究を深めたり課題を解決したりしようとする力がバランスよく問われている。
(2)出題範囲	4	世界の自然環境と自然災害、資源と産業の変化、都市と生活文化、環太平洋地域、地域調査が出題され、学習指導要領からバランスよく問われている。
(3)題材	4	地理の授業で扱われる内容を中心に、地理的な知識や思考力を基に考察したり推察したりする内容が多く、工夫された出題となっている。
(4)問題の場面設定	4	特に第2問では生徒が多様な資料を基に多面的に探究する過程、第5問では生徒が自ら地域調査を進める過程がとられ、第1問、第3問、第4問と合わせてバランスよく設定されている。
(5)問題構成	4	出題のねらい、範囲、題材、場面設定ともに、バランスよく多様な観点から出題されている。各大問の設問数及び総問題数も適切である。
(6)表現・用語	3	受験者に配慮した適切な表現や用語が活用されているが、写真の判読が難しいものがあり、明瞭な資料の提示とそこから読み取ることのできる情報に対応した設問の在り方に期待したい。
(7)難易度	4	資料から読み取った情報を基に、地理的知識や技能、地理的な見方や考え方を働かせて考察、分析できる問題が多く、各設問の難易度も適切である。
(8)得点のちらばり	4	平均点付近を中心に、正規分布に近い広がりが見られ、全体的に判別性が適切に機能していたと考えられる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	問題全般にわたって、ねらい、出題範囲や題材、場面設定などの問い方、難易度等、各観点ともに工夫され、バランスのよい出題となっている。



科目名	現代社会
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	基礎的な知識だけで正答できる問題だけでなく、資料や会話文等を用いて思考力・判断力・表現力等を問う出題や、資料を読み取る技能を問う出題なども多く含まれ、バランスは良い。
(2)出題範囲	4	受験者の生活経験と学習指導要領が定めている学習の範囲とが適切に組み合わせられて出題されており、「現代社会」の授業を受けて学習をしていれば概ね解くことのできる範囲で出題されている。
(3)題材	4	問題に使用された資料等については特定の教科書への偏りは見られず、そのほとんどが受験生にとって初見のものであったと思われる。また、時事的な課題につながるテーマが取り上げられているなど、随所に工夫が見られた。
(4)問題の場面設定	4	大学の授業、高校生同士の会話、大学生と高校生の会話、高校の授業と、どれも受験者にとって生活の中から想像しやすく読みやすい場面が設定され、学び方に対するメッセージ性が込められている。
(5)問題構成	3	思考力や判断力等を問う出題意図を踏まえるとやむを得ないこととも考えられるが、問題文や資料等の分量が非常に多く、十分に時間をかけて問題に取り組む余裕は全く無かったと推測される。
(6)表現・用語	4	複数の解釈が可能であったり、誤読を招いたりするような表現は見当たらなかった。用語も「現代社会」の学習をしていれば概ね読み解くことができる範囲で出題されている。教科書によっては記載されていない用語も多少見られた。
(7)難易度	4	小問ごとに難易度に差はみられたが、全体的には適正であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは概ね適正であり、選抜試験として適切な出題となっている。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	教科的な知識のみならず、主体的に学習に取り組み、思考し判断し、それを表現するという新課程での学習のねらいが、旧課程であるこの試験にもよく反映されている。また、高等学校等における学習の方向性を示唆するメッセージ性を強く感じる良問が多かった。

科目名	倫理
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題がバランスよく出題されていた。
(2)出題範囲	3	おおむね高等学校学習指導要領の範囲内から特定の分野・領域に偏ることなく出題されていたが、中には細かい知識を問う設問が含まれていた。
(3)題材	3	題材は適切であったが、ごく一部の教科書でのみ扱われている知識で難易度を上げる設問も見られた。初見の資料を用いて、知識や思考力ではなく、読解力のみを問う設問については改善を望みたい。
(4)問題の場面設定	4	先哲の原典資料のみならず、高校生、大学生や祖母との対話を通して、協働して探究的に学習する場面が設定されており、倫理という科目の本質に照らして適切であった。
(5)問題構成	4	設問数、配点、設問形式は適切であった。
(6)表現・用語	4	文章表現、用語は適切であった。
(7)難易度	4	標準的な難易度の問題が多く、全体的な難易度は適切であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適切であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体的には適切な試験であった。今後も、対話を通じて異なる視点に触れ、思索を深めていく場面設定を通じて、日々の基礎的な学習の達成を適切に判定できる問題となることを期待したい。

科目名	政治・経済
-----	-------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や正確な知識・理解を基に資料を読み取って思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題などがあり、全体としてバランスよく出題されている。ただし、より思考力等を問う問題の充実を期待したい。
(2)出題範囲	4	特定の分野に偏ることなく学習内容全般にわたっており、学習指導要領の範囲内から出題されていることから、出題範囲は適切である。
(3)題材	4	出題されている内容はおおむね基本的なものであり、資料等も特定の教科書等に偏っておらず適切である。図表や原典・条文等、様々な資料が使用されており、高等学校の授業に活用できる題材も含まれ、授業改善へのメッセージ性もある。
(4)問題の場面設定	3	様々な学習場面が設定され、授業改善につながるメッセージ性が感じられる一方、大問の導入部分と各設問との関連性は希薄である。また、大問の導入部分がない場合、唐突感が否めない設問がみられる。
(5)問題構成	3	問題構成はおおむね適切であるが、同じ出題形式や出題分野が続くことがみられた点は課題である。問題を解くために不要な文言が削減されており、読みやすい印象があるが、資料の説明等の文章量がこれ以上増えると、思考力等を働かせる時間が限られてしまうため、文章量の制限等が必要であると思われる。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語については、受験者が理解しやすいように工夫されており、適切である。ただし、思考力等を発揮させるために必要な場面設定ではあるが、難解で読み取るのに時間が掛かる問題文もみられ、平均点を低下させる要因の一つになっていると思われる。
(7)難易度	4	全体としては、標準的な難易度の問題が多く、問題の難易度は適正である。ただし、解答するのが困難な問題もあり、また、問われている内容の難易度は高くはないが、正しいものをすべて選ぶ形式の問題は正確な知識・理解が求められるので、平均点が低くなったものと思われる。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは正規分布を示しており、適正である。ただし、下位層で差がつきにくく、上位層の判別ができる問題が増えたといえる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として適切な試験である。高等学校の授業で活用できる題材や思考力・判断力・表現力等を問う工夫された問題もみられるが、より一層、問題の質を高める工夫を求めたい。また、問題文を読み取るのに時間がかかる点や正しいものをすべて選ぶ問題形式において正答率が低下する点などの課題については、さらなる検討をお願いしたい。

科目名	倫理, 政治・経済
-----	-----------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題などがあり、全体としてバランスよく出題されている。
(2)出題範囲	3	特定の分野・領域に偏ることなく、おおむね学習指導要領の範囲内から出題されているが、「倫理」において、細かい知識を問う設問が含まれていた。
(3)題材	3	全体としては、出題されている内容はおおむね基本的なものであり、題材は適切である。「政治・経済」においては、高等学校の授業に活用できる題材も含まれ、授業改善へのメッセージ性もある。ただし、「倫理」において、知識や思考力をさほど必要とせずに解けてしまう設問が出題されていることについては改善を望みたい。
(4)問題の場面設定	3	「倫理」においては、先哲の原典資料のみならず、高校生、大学生や祖母との対話を通して、協働して探究的に学習する場面が設定されており、「倫理」という科目の本質に照らして適切である。また、「政治・経済」においては、様々な学習場面が設定され、授業改善につながるメッセージ性が感じられる一方、大問の導入部分と各設問との関連性は希薄である。
(5)問題構成	3	全体としては、問題構成はおおむね適切であるが、「政治・経済」において、同じ出題形式や出題分野が続くことがみられた点は課題である。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語については、受験者が理解しやすいように工夫されており、適切である。
(7)難易度	4	全体としては、標準的な難易度の問題が多く、問題の難易度は適正である。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として適切な試験である。「倫理」においては、今後も、対話を通じて異なる視点に触れ、思索を深めていく場面設定を通じて、日々の基礎的な学習の達成を適切に判定できる問題となることを期待したい。「政治・経済」においては、高等学校の授業で活用できる題材や思考力・判断力・表現力等を問う工夫された問題もみられるが、より一層、問題の質を高める工夫を求めたい。

科目名	数学 I
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	数学的に処理する力を問うだけにとどまらず、日常生活や社会の事象を数理的に捉える力や、数学を活用した問題解決に向けて、見通しを立てる力、解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりする力も問うており、バランスよく出題されている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されており、設問内容も学習指導要領の範囲内であるとともに、その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	全体を通して、数学的な問題解決の過程を意識した場面設定が含まれており、問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	3	試験時間や受験者層等に照らして、配点、設問形式は適切であるものの、事象を数学化する部分の文字量がやや多く、受験者が問題場面の理解に時間を要してしまう可能性がある。
(6)表現・用語	4	理解し難い表現や誤解を与える表現は特になく、使用する用語についても受験者の学習の履歴が解答に影響しないように説明されており、適切である。
(7)難易度	4	学びの質の面でやや難易度が高い問題も見られたものの、育成すべき資質・能力の視点に鑑みた際にその意義は重要であり、全体としては、基本～標準的な難易度で構成されており、概ね適切である。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果、得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲は適切であり、育成を目指す資質・能力に資する数学的な問題解決の場面設定と問題構成がなされている。問題全体の難易度は概ね適切であり、得点のちらばりは適正であった。問題作成方針に即して概ね適切である。

科目名	数学 I ・ 数学 A
-----	-------------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	数学的に処理する力を問うだけにとどまらず、日常生活や社会の事象を数理的に捉える力や、数学を活用した問題解決に向けて、見通しを立てる力、解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりする力も問うており、バランスよく出題されている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されており、設問内容も学習指導要領の範囲内であるとともに、その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	全体を通して、数学的な問題解決の過程を意識した場面設定が含まれており、問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	3	試験時間や受験者層等に照らして配点と設問形式は適切であるものの、事象を数学化する部分の文字量がやや多く、受験者が問題場面の理解に時間を要してしまう可能性がある。
(6)表現・用語	4	理解し難い表現や誤解を与える表現は特になく、使用する用語についても受験者の学習の履歴が解答に影響しないように説明されており、適切である。
(7)難易度	4	学びの質の面でやや難易度が高い問題も見られたものの、育成すべき資質・能力の視点に鑑みた際にその意義は重要であり、全体としては、基本～標準的な難易度で構成されており、概ね適切である。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果、得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲は適切であり、育成を目指す資質・能力に資する数学的な問題解決の場面設定と問題構成がなされている。問題全体の難易度は概ね適切であり、得点のちらばりは適正であった。問題作成方針に即して概ね適切である。

科目名	数学Ⅱ
-----	-----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、数学的に処理する力を問うだけでなく、分野を横断して統合的・発展的に考える力や、概念を形成することについて、統合的・発展的に考える力などの思考力・判断力・表現力等を問う問題も出題されており、バランスのとれた出題といえる。
(2)出題範囲	4	特定の分野・領域に偏りもなく科目の全範囲から出題されており適切である。
(3)題材	4	出題された題材は特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	数学的な課題を的確かつ能率的に処理し、得られた結果を活用する過程、解決過程を振り返り一般化する過程、問題解決の方針に沿って考察し論理的に推論したりする過程が重視されている。問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	4	数学的な思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランスよく配置されている。日常生活や社会の事象に関わる出題はなかった。
(6)表現・用語	4	理解しがたい表現や誤解を与える表現はなく、問題解決の方針も分かりやすく丁寧で適切である。
(7)難易度	4	問題の難易度は適正であった。基礎的な事項の理解を問う問題と、数学的な思考力・計算力等を問う問題がバランス良く出題されていた。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果、得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲や難易度は適切であり、数学的な問題解決の過程を重視した試験である。生徒の学びの質を測る設問もあり、高等学校段階における基礎的な学習の達成度を測る試験として適切である。

科目名	数学Ⅱ・数学B
-----	---------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、数学的に処理する力を問うだけにとどまらず、日常生活や社会の事象を数理的に捉えた上で数学的に処理する力、得られた結果を基に見出した事柄を既習の知識と結びつけ、概念を広げたり深めたりする力や拡張・一般化する力、数学的な見方・考え方の良さを見いだす力などが問われており、バランスの取れた出題となっている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されている。設問内容も指導要領の範囲内であるとともに、その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	日常生活や社会の事象を数理的に捉えた上で数学的に処理し問題解決につなげる過程、得られた結果を基に見出した事柄を既習の知識と結びつけ概念を広げたり深めたりする過程、会話文などから問題を解決するための見通しを立てる過程、が重視されている。問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	4	数学的な思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランスよく配置されている。日常生活や社会の事象に関わる出題は第3問のみであった。
(6)表現・用語	4	理解しがたい表現や誤解を与える表現はなく、問題解決の方針も分かりやすく丁寧で適切である。
(7)難易度	4	問題の難易度は適正であった。基礎的な事項の理解を問う問題と、数学的な思考力・計算力等を問う問題がバランス良く出題されていた。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果、得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲や難易度は適切であり、数学的な問題解決の過程を重視した試験である。生徒の学びの質を測る設問もあり、高等学校段階における基礎的な学習の達成度を測る試験として適切である。



科目名	簿記・会計
-----	-------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	基礎的内容から応用的内容まで網羅されており、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題を含め、バランスの良い出題である。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されており、特定の分野・領域に偏っておらず適切である。
(3)題材	4	資料等は、特定の教科書に偏っておらず適切である。
(4)問題の場面設定	4	生徒が先生と会話しながら簿記・会計の理解を深めていく様子は、簿記の学習過程において必然性のある形で出題されており、適切である。
(5)問題構成	3	基礎的内容の出題がやや多いが、応用的内容の出題も含めてバランスは保たれている。一方、読み取りに手間がかかったり、解答時間に不足が生じるような傾向は見受けられなかった。設問数、配点、設問形式等試験問題の構成は適切である。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は、教科書の一般的な表現を使用しており、適切である。
(7)難易度	4	平均点は昨年度よりもやや上昇しているが、難易度は適正である。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは、おおむね正規分布に近い形を示しており、適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	上記の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、大学入学共通テストの試験問題として適切である。

科目名	情報関係基礎
-----	--------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	情報に関する基礎的科目における知識の理解の質，思考力・判断力・表現力等といった資質・能力を踏まえ，問題解決を進めていく過程を意識した出題がなされている。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲において，基本的な内容からそれを活用する内容まで，特定の学科に偏らない出題がなされている。
(3)題材	4	特定の学科の学習内容に偏ることなく，どの学科に属した受験者でも，出題内容を読み取ることができる題材である。
(4)問題の場面設定	4	基本的な知識を用いて，身近な問題を解決する手順や方策などを考える場面が設定されており，適切である。
(5)問題構成	4	共通問題2問必答，選択問題から1問選択という出題形式は，受験者の出身学科における学習内容の差異を鑑みると，適切である。
(6)表現・用語	4	文章の表現や用語の使い方は適切である。また，文章だけでなく図や表も示すことにより，問題文の内容を適切に理解できる配慮がなされている。
(7)難易度	4	各大問において適切に時間配分を考えられた難易度であり，選択問題である第3問と第4問における難易度の差もほとんどなく，受験者の資質・能力を測る上では適切である。
(8)得点のちらばり	4	平均点，標準偏差の値から適切な分布であった。また出題範囲，難易度，受験者の実態からも適切である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	以上の観点踏まえ，知識の理解の質，思考力・判断力・表現力等を問う大学入学共通テストの試験問題として適切である。

科目名	物理基礎
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められ、バランスの取れた出題であった。
(2)出題範囲	4	全ての領域から学習指導要領に基づいて適切な範囲で出題されていた。単元にばらつきはあるものの、問題数や試験時間を考慮するとよく工夫されていた。
(3)題材	4	日常的な題材や教科書でよく取り扱うような題材が多く、なじみのないものには、丁寧な問題文や図・グラフ等が与えられており、初見でも回答できるように工夫されていた。
(4)問題の場面設定	4	探究過程を意識した場面設定がなされていた。日常生活の中で課題を見つけ、協働的に学習する場面や与えられたデータ等から考察する問題が設定されていた。
(5)問題構成	4	出題数や試験時間と難易度の関係、配点など適正であったと思われる。選択肢の数が増えたことは、受験者の学習の到達度の程度を測るために役立っている。
(6)表現・用語	4	文章表現や用語について、分かりやすい表現で出題されていた。また、場面設定や初見のグラフの説明等も受験者に分かりやすいように工夫されていた。
(7)難易度	3	基礎的な設問が中心であったが、探究的な場面設定を通して日常生活への物理概念の応用を求められる発展的な設問も多く含まれていた。
(8)得点のちらばり	4	平均点 28.72 点、標準偏差 12.29 で、得点分布はおおむね正規分布に従っており、得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として、受験者の高等学校段階における基礎的な学習の到達の程度を判定できる問題であり、「知識・技能のみならず、思考力・判断力・表現力等も重視して評価を行う」という共通テスト問題作成方針のとおりであり、適切な問題であった。

科目名	物 理
-----	-----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して考察することが求められる、バランスの取れた出題となっていた。
(2)出題範囲	4	学習指導要領の範囲内からの出題であり、偏っていない。
(3)題材	4	特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	3	探究活動の場면을切り取った場面設定となっており、学習の過程を意識したものとして適切であった。ただ、第2問においては、重力の影響を無視した設定であった一方で、小問によってはロケットの重力と比較することが必要であるなど、整理するのが難しい場面設定であった。
(5)問題構成	4	探究をテーマとした問題が3題出題されたため、特定分野に偏りが見られたが、他分野との融合問題や小問集合でうまくバランスが取れていた。また、基本を問う問題から資料を活用する問題、思考力を問う問題など多角的な構成であったと思われる。
(6)表現・用語	3	全体的に適切で、分かりやすい表現で出題されていた。ただ、第3問の問3で「傾きに比例する物理量」については、その表現が受験者にとって目新しく、問われている事柄を整理しにくいものであった。
(7)難易度	4	全体的に文章量や表・グラフが多く、読み取りに時間がかかると思われるが、読み取れば内容は平易なものも多く、平均点から考えても妥当な難易度であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題のねらいが明確で、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う問題であった。探究の過程を重視した出題構成は、高等学校の授業改善へ有効なメッセージになったと思われる。

科目名	化学基礎
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	高等学校における通常の授業を通じて身に付けた知識の理解や思考力等を問う問題がバランス良く出題されており、大学教育を受けるために必要な能力について把握することができる問題となっていた。
(2)出題範囲	4	学習指導要領に示されている，化学と人間生活・物質の構成・物質の変化の各単元から万遍なく出題されていた。
(3)題材	4	第1問は小問集合形式で，第2問は宇宙ステーションの空気制御システムをテーマとしていた。特に，第2問は最先端の技術を「化学基礎」の範囲で無理なく考えられる題材であった。
(4)問題の場面設定	4	身近な自然現象を題材としたり，過不足の生じる化学反応について化学反応の量的関係の活用を見たりするなど，化学の本質について問うことができるよう工夫されていた。
(5)問題構成	4	知識を問う問題では，事実的な知識の習得を問う問題と知識の概念的な理解を問う問題がバランス良く出題されていた。また，思考力・判断力・表現力等を問う問題のバランスは適切であった。
(6)表現・用語	4	全体的に，丁寧なリード文と共にイメージしやすい図が用いられていた。問題文も理解しやすい表現であっただけでなく，図や化学反応式が再掲されるなど，受験者への負担を配慮したものであった。
(7)難易度	4	「化学基礎」としての難易度は妥当であると考えられる。難易度のバランスが取れており，幅広い学力層を識別できる良問が多かった。
(8)得点のちらばり	4	受験者の得点のちらばりを見ると妥当であったと思われる。平均点は27.31点，標準偏差は10.75であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲や題材は「化学基礎」の内容として妥当であると考えられる。日常生活や社会を題材とするなど，化学をより身近に感じられるような工夫された問題の作成を今後もお願いしたい。

科目名	化学
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	「高等学校教育の成果として身に付けた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力等を問う」という「作成方針」に沿った内容であった。
(2)出題範囲	4	「物質の状態と平衡」、「物質の変化と平衡」、「無機物質の性質」、「有機化合物の性質」、「高分子化合物の性質」から幅広く出題されており、学習指導要領に示された範囲を網羅していた。
(3)題材	3	「受験者にとって既知でないもの」からの出題については問題文で丁寧に説明されており、受験者への配慮がうかがえた。一方、大学の学習内容を先取りしているかのような誤解を与える懸念のあるものも複数見られた。今後については、過去の文献の記述を深掘りするものや、身近な自然現象を化学の視点で考察するものを題材とすることも検討していただきたい。
(4)問題の場面設定	4	高等学校等で学習した知識を用いて未知を物質の性質を予想するもの、リード文の説明内容を活用して既知でない現象について判断するものなど、学習の過程を意識した場面設定の工夫が見られた。
(5)問題構成	4	第1問から第4問までは分野別の出題であり、第5問は総合的な問題であった。基礎的・基本的な知識や理解を平易に問うものや思考力・判断力・表現力等を多角的に問うものなど、幅広い学力層の受験者の学力を測定できる構成となっていた。
(6)表現・用語	4	リード文をできるだけ簡潔にし、分かりやすく表現しようとした工夫が例年以上に多数見られた。その他にも化学反応式を再掲するなど受験者の負担を軽減する工夫が感じられた。
(7)難易度	4	平均点及び標準偏差は今年度と同程度となることが望ましい。
(8)得点のちらばり	4	平均点は54.77点、標準偏差は20.95であった。また、上位層から下位層まで得点のばらつきも適切であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	「化学」の各分野から幅広く、偏り無く出題されており、学習指導要領に準拠した、受験者の化学に関する理解度を多角的に評価できる良問が多かった。

科目名	生物基礎
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解を問う設問だけでなく、知識を活用して思考させる設問や探究活動により培われた思考力、判断力、表現力等を求めるような設問もあり、全体的にバランス良く出題されていた。
(2)出題範囲	4	学習指導要領に定める三つの大項目から偏りなく出題されていた。
(3)題材	4	教科書間の偏りはおおむねなかったが、教科書における扱いに軽重がある題材も一部出題されていた。
(4)問題の場面設定	4	「生物基礎」の問題作成方針にのっとり、適切な形で出題されていた。
(5)問題構成	4	解答数は全16問であり、解答時間内に十分解答しうる問題数となっており、適切であった。
(6)表現・用語	4	図や表の説明がページをまたいだり、前のページに戻って読み取らせたりする問題はほとんど見られなくなり、おおむね適切であった。
(7)難易度	3	平均点は31.57点で、理科の基礎科目の難易度としては、おおむね適切な結果であった。しかし、正答率が9割を超えた小問も数問見られ、各小問の難易度について更に工夫を求めたい。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として、受験者の高等学校段階における基礎的な学習の達成度を判定するための試験として適切であった。

科目名	生物
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題も含め、バランスの取れた出題であった。知識を問う問題であっても、複数の知識を関連付けさせたり、知識を活用して思考させたりする問いが多く見られた。
(2)出題範囲	4	学習指導要領に定める五つの大項目から偏りなく出題されていた。
(3)題材	4	設問の題材等は特定の教科書に偏ることなく、既知の題材と初見の題材の出題のバランスも適切であった。
(4)問題の場面設定	4	探究活動やフィールドワークなど、高等学校における探究の過程を意識した場面設定がなされていた。
(5)問題構成	4	設問数、配点、設問形式等はおおむね適正であった。ただし、大きな配点のある小問には、できるだけ部分点を設定するよう、引き続き検討していただきたい。
(6)表現・用語	4	表現・用語は適正であった。
(7)難易度	3	受験者が制限時間内に解ける適切な分量であり、かつ適度に難問も設定され、全体としておおむね適正な難易度であった。しかし、正答率が低すぎる小問が複数見られたため、難易度のバランスについて今後も検討をお願いしたい。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	受験者の学力を適正に評価できる試験であった。



科目名	地学基礎
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	共通テスト問題作成方針を踏まえ、知識の理解を問う問題や思考力・判断力・表現力等が求められる問題の出題も見られ、バランスの取れた出題となっている。
(2)出題範囲	3	出題内容や出題範囲については、ほぼ教科書に準じた内容から構成されており、学習指導要領に示された範囲からおおむね出題されていた。全体的にはバランス良く出題されているものの、幾つかの問題は「地学基礎」の範囲外であると考ええる。
(3)題材	4	問題で使った題材は、教科書によって取り扱いに差が見られるものもあったが、特定の教科書への偏りはなかった。
(4)問題の場面設定	4	日本列島周辺の自然環境や自然災害に目を向けるなど、共通テストの問題作成方針を踏まえた設問が複数あり、適切であった。
(5)問題構成	4	問題数、配点、選択肢とも、おおむね適切であった。
(6)表現・用語	4	全体として、受験者に分かりやすい表現が用いられており、理解しやすいもので、おおむね適切であった。
(7)難易度	4	問題の難易度はおおむね適切であった。
(8)得点のちらばり	4	高得点を取る受験者ほど正答率が高くなるような問題が多く、得点の散らばりもおおむね適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	知識の理解を問う問題や、科学的な思考力・判断力・応用力等を問う問題でおおむね構成されており、「地学基礎」の学習達成度を測るための問題であったと考える。

科目名	地 学
-----	-----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえ、知識の理解を問う問題や思考力・判断力・表現力等が求められる問題が、バランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	学習指導要領の範囲内から適切に出題されているが、「地球の大気と海洋」からの出題がやや多かった。
(3)題材	4	教科書によって取り扱いに差が見られるものもあったが、特定の教科書への偏りはなかった。
(4)問題の場面設定	4	探究活動や観察・実験、野外実習など、共通テストの問題作成方針を踏まえた設問が複数あり、適切であった。
(5)問題構成	4	選択肢数が6択の問題が例年に比べ多かったが、問題文の量や設問形式は適正であった。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は、教科書を基にしたもので適切であった。
(7)難易度	4	設問によってはやや難易度が高いものも見られたが、全体の難易度は適切であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりはおおむね適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	「地学」の学習到達度を測るため、知識の理解や思考力・判断力・表現力等を総合的に問う問題で構成されている。

科目名	英語（リーディング）
-----	------------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識・技能の確実な習得と、それを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力等をバランス良く測るよう工夫された出題である。
(2)出題範囲	4	高等学校段階で学習する範囲の言語材料の知識で対応できる出題で、受験者への負荷は適正なレベルである。
(3)題材	4	日常的话题から科学的な話題まで幅広く取材されており、受験者の知的関心に合った適切な題材である。
(4)問題の場面設定	4	高等学校における学習の過程が意識されており、問題の場面設定は適切であった。
(5)問題構成	3	個々の大問は内容、分量、設問のバリエーション等、高く評価するが、試験時間に照らして全体の文章量は多く、大問の数を減らして構成を変更することなども検討できる。
(6)表現・用語	4	文章表現は学習指導要領に示された範囲内で、それぞれの設定に応じ、適切なものであった。
(7)難易度	4	様々な目的や場面、状況などに応じて、概要や要点を把握したり、必要とする情報を適切に読み取ったりする力を測るために、平易なものからやや難しいものまでバランス良く出題されている。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正で、幅広い受験者層を適切に識別できる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	グローバル社会で活躍する人材の育成を目指した英語教育改革の方向性を反映している。実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて外国語の知識を活用できるかを評価するテストとして、全体として適切である。

科目名	英語（リスニング）
-----	-----------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	本テストでは、リスニングに特化した教材使用の指導ではなく、語用論を意識し、目的・場面・状況と発話の含意と文脈、話者の意図などを理解する活動が必要であることが、出題に明確に表れている。
(2)出題範囲	4	高等学校で学ぶ「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅰ」で学ぶ内容・範囲を網羅している。
(3)題材	3	日常の身近な話題から社会問題まで、幅広い分野の題材が使用されており、モノローグ、二者の対話、四者の対話、講義などの形式で題材が扱われている。今後一層の幅広いトピックが求められる。
(4)問題の場面設定	4	男女についての固定概念から離れた内容や、生徒たちが海外の大学で聞く講座スケジュール説明など場面設定が良かった。
(5)問題構成	3	第1問、第2問におけるイラスト問題の在り方、読みの回数、第5問におけるワークシートのまとめ方及びグラフと流れる英文との関連について、今後検討していただきたい。
(6)表現・用語	4	多種多様な言い換え表現が選択肢に用いられていて良い。イギリス英語や英語を母国語としない話者などの英語が使われているが、今後アメリカ英語に偏重せず、更に多様な英語が求められる。
(7)難易度	4	一部には、易しすぎる問いや難しい問いもあったが、全体的には標準的な難易度であり、適切であった。
(8)得点のちらばり	4	平均点がやや高いが、受験者のリスニング力の向上が理由と考えられるため、適切であると思われる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体的に音声は聞き取りやすく、実生活に起こる身近なコミュニケーションを目標とする場面・状況設定で、内容全体と文脈、話者の意図や含意を聞き取る力を測るよう作られている。学習指導要領に沿った4技能5領域のバランスの良い言語活動と指導の重要性を明示しており、適切な問題である。

科目名	ドイツ語
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	文法に偏ることなく、実際のコミュニケーションを想定し、思考力や総合的な判断力を問う問題を含め、バランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	学習指導要領には「英語に準ずる」としか記載されておらず、明確な範囲は設定しづらいが、高校で3年程度継続して学んだ範囲としてはおおむね適切である。
(3)題材	4	高等学校用の教科書は存在していないため一概には言えないが、特定の教材に偏っておらず、適切である。
(4)問題の場面設定	3	高等学校における学習の過程を意識した問題の場面設定がおおむねなされているが、一部高校生には想像しづらい場面の問題もあった。
(5)問題構成	4	発音、文法、構文、会話、長文などバランスの良い構成である。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は適切である。
(7)難易度	4	3年程度継続して学習していれば適切である。
(8)得点のちらばり	3	母集団が少ないため、統計的に意味のある分布とは思われないが、おおむね妥当な範囲だと思われる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	3年程度継続して学習していればおおむね適切である。

科目名	フランス語
-----	-------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	識別力の高い問題がバランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	出題範囲は適切である。
(3)題材	4	出題される資料等は適正であり，現代的な話題性に富む。
(4)問題の場面設定	4	受験生にとってなじみ深いものであり，適切である。
(5)問題構成	4	基礎から応用へと配列された試験問題の構成は適切である。
(6)表現・用語	4	難解な表現・用語はなく，適切である。
(7)難易度	4	問題の難易度はおおむね適正である。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	一部に難化傾向はあるが全体として適切な試験である。

科目名	中国語
-----	-----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	言語材料を複数組み合わせることで思考力や総合的な判断力を問う問題を含め、バランス良く出題されている。会話や文章題の空欄補充等も細かい文法にこだわらず、会話や文の流れをとらえさせる問題であり、おおむね適切である。
(2)出題範囲	4	学習指導要領第2章第8節では、「その他の外国語」は「英語に関する各科目」に「準じて行うものとする。」とあり、明確な範囲は考えにくいですが、語句は主要辞書の重要語等を使っており、3年間で学ぶ範囲としておおむね適切な出題であった。
(3)題材	4	出題される資料等が特定の教科書に偏っておらず、適切である。
(4)問題の場面設定	4	高校生にとって身近な場面設定を元に出題されている。
(5)問題構成	4	発音・ピンインの理解・語句・表現・会話・図表の読み取り・長文読解の構成で、第4問では複数の言語材料が提示され、数的処理も必要とされた。第5問は文章量も増え、分析能力を重視している。試験時間と問題数のバランスについては考慮していただきたい。
(6)表現・用語	3	文章表現・用語の使用はおおむね適正である。設問の仕方は適切であるが、選択肢の文も量が多いため、わかりやすいものが望まれる。
(7)難易度	4	問題の難易度は適正である。受験者の特性を鑑みて今後も平均点にこだわらず、適正な難易度を保っていただきたい。
(8)得点のちらばり	3	得点のちらばりは、受験者の構成や科目の特性上、高得点者に偏りがみられるのは致し方ない。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	大学教育を受けるために必要な能力において、基礎的な学習の達成度や思考力が測れる問題の出題となっている。受験者の特性や科目の特性に配慮がなされ、よく工夫しており、おおむね適切な作問がなされている。

科目名	韓国語
-----	-----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	2	第1問が思考力を問う問題になっていない。 例年の指摘にもかかわらず改善されていない。
(2)出題範囲	2	従来指摘しているように、第1問は、学習指導要領の学習目的にそぐわない内容であり、学習範囲（外国語としての学習範囲を含む）を逸脱している語彙、表現なども見受けられる。
(3)題材	4	第1問を除いて、おおむね高校生が学習する上で適切な題材を扱っている。
(4)問題の場面設定	3	実際のコミュニケーションの場面を想定した問題になっていない出題がある。
(5)問題構成	3	第1問の改善が求められる。
(6)表現・用語	3	第1問の語彙などに問題がある。
(7)難易度	4	ただし、第1問、及び、第4問に難易度の高い出題がある。
(8)得点のちらばり	4	純粋な学習者の受験が一定程度見られる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	第1問の改善を求める。